

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2015. 9
No.265

鳥取工場地鎮祭あいさつ

先月四日に行われた鳥取工場地鎮祭のあいさつを掲載いたします。

私どもにとりまして、この鳥取工場は中国地区における製造の拠点としてだけでなく、事業継続計画拠点としての役割を担っております。また、鳥取県と鳥取市に人材雇用・人材育成・自動車部品製造技術・管理技術を根づかせ定着させ、鳥取県民・市民の方々の雇用や人材育成など皆さんと一緒に会社を発展させていくことがイナテック鳥取の社会貢献と考えております。つまり、イナテック鳥取の基本的な目的は社員の生活を守ることです。そして社員

の生活を守るためには、会社が利益をあげ続けなければならないということです。

この地鎮祭を滞りなく済ませることができましたのも、ひとえに鳥取県平井知事様、鳥取市深澤市長様、各お取引先様のご支援のおかげと深く感謝いたしております。

また着工に先立ちまして、計画段階から多くのご協力を頂いた大和ハウス藤谷専務様には改めて御礼申し上げます。

工事をお引受け頂く大和ハウス様は業界でも屈指の施工実績を誇る企業であり、私どもも絶大な信頼を寄せているところでございます。

皆様にはこれから8ヶ月にわたり、ご尽力をお願いすることになります。工事の安全と建物の無事完成を心よりお願いいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

どうかよろしくお願い申し上げます。

「まず行動」の現場主義

八月一四日付日本経済新聞に「アイシン精機社長になられた伊原保守氏の記事がありましたので、少し紹介させていただきます。

「現場主義の『現地現物』と、『スピード重視』の姿勢は変わらない。」課題は火事と同じ。家が火事ならすぐ消すのに、会社だと原因や誰が消すべきか考えてしまう。『まず行動を』と訴える。」と伊原社長はおっしゃっていました。

「社員の皆様へのメッセージ6月号」の付録で付けさせていただいた『創業の原点』を思い出しました。創業者の邦松会長の口ぐせが「すぐ動け」でした。

「自らが先頭に立ち、率先垂範で業務に邁進すること」

まさしくイナテックの創業のDNAであります。イナテック社訓「和と実行」…みんなで仲良くすぐ実行せよ、というDNAを伊原社長の記事より思いを新たにいたしました。

外国人から見たニッポンは素敵だ

東邦出版「JAPAN CLASS」に、外国人が称賛する日本の「交通機関の正確さ」について書いてありました。外国人の意見として、

「3分遅れでも遅延のお詫びのアナウンスが流れる。」

「飛行機の定時到着率も世界最高水準だ。」

「日本はとんでもなく効率的なインフラを有している。どれだけ時間が節約できているのか。」

「新幹線の時刻表を見ても、最短でわずか3分で次発が出ています。」

と、ありました。

日本では電車は時刻表通りに来るのは当たり前ですが、世界的に見ると、これは例外と言えます。

例えば、

デンマーク人

「デンマークでは時間通りに電車が発発したら三ユーソになる。」

アメリカ人

「ニューヨークなんか5分遅れが当たり前だ。30分たつても来ないときもある。」

フィリピン人

「フィリピンだと特定の時間に電車が駅にいて待つことがない。いる時に乗る。とにかく来るまで待つ。」

カナダ人

「カナダだと20分以内なら定刻扱いで、45分遅れると遅延証明書をくれる。」

二八

熱不必除、而除此熱惱、身常在清涼臺上。窮不可遣、而遣此窮愁、心常居安樂窩中。

熱は必ずしも除かずして、而も此の熱惱を除かば、身は常に清涼台上に在らん。窮は遣るべからずして、而も此の窮愁を遣らば、心は常に安樂窩中に居らん。

一 熱——暑熱。二 熱惱——暑いと思ひ悩む心。三 窮——貧窮。四 安樂窩——安樂な住家。北宋の邵康節が名づけたことから言う。宋史に「富弼・司馬光・呂公著の諸賢、洛中に退居し、雅に雅を敬い恒に相従いて遊び、市園の宅を為る。雅は歳時に耕稼するも、僅に衣食を給するのみ。その居を名づけて安樂窩」と曰い、因りて自から安樂先生と号す(邵雅伝)とある。

イギリス人

「日本に行った時、乗客が降りるのを待つながら、みんな乗り込んでいた。ドア付近の乗客は乗車口を塞がないようにしていた。電車が到着するや否や、俺たちイギリス人は列に並ぶ能力を失う。突然みんな野蛮になって、他の行く手を遮って乗り込もうとする。」

また、

「列に並ぶということは、文明の偉大な成功のひとつだ。」

「日本に本当に引越したくなってきた。」
というコメントもありました。

自然の暑さは必ずしも除くを要しないが、(暑ければ暑いのでよいのである)、ただ、この暑さを気にして思ひ悩む心をさえ消すことができれば、その身は常にさっぱりした涼み台の上にいる気持になれる。また、現実の貧しさは追い払うことはできないが、(貧しければ貧しいのでよいのである)、ただ、この貧しさを気にして悩む心をさえ追いやることができれば、その心は常に安樂な住家の中にある気持になれる。